

都市農地の可能性と小さな動き ～ 元気な野菜で元気なカラダを ～

男の子育てサークル DADDY 代表 鍋井 慎也



■はじめに

まず最初に、都市農地の可能性を拓ける『農』の機能発揮支援アドバイザー派遣事業（以下、アドバイザー派遣事業）という素晴らしいソフト事業を継続されている農林水産省、都市農地活用支援センターの皆さまに感謝いたします。また、同事業を活用させていただき、ありがとうございます。現場では、こういったソフト事業が非常に役立ちます。

私は 2004 年 12 月、息子が 2 歳の時に、男だからできるやりかたもあるのではと思い、男だけで子育てサークルをつくりました。子どもの笑顔は周りを癒す魔法のようです。

活動は、砂場やブランコ、積み木、ママゴトのキッチンといったものづくり、不要になった幼児用の補助便座を集めて公共施設等への寄贈のほか、体験型イベントに参加するだけでなく、主催も行ってきました。近年は、登録している市の出前講座や、キャリア教育にも関わっています。

■事業活用までの愛媛県新居浜市の状況

私の暮らす愛媛県新居浜市は、住友により江戸時代から別子銅山の採掘に伴い発展した四国屈指の工業都市です。化学肥料を作っている住友化学や住友林業発祥の地でもあります。このため、宅地と農地が混在し、圃場は狭いです。また、農家の経営規模も小さく、農業で生計を立てている専業農家はほとんど見られません（統計上は、兼業農家が会社を定年退職したら専業農家になっています）。

このような状況にある当市ですが市民からの要望があり、昭和 50 年に『自然農園（市民農園）』を

市内随所に開設しました。「自然農園を育てる会」は、最盛期には 56 農園 687 人の会員を有す団体でしたが、現在は会員の減少、高齢化が進んではあるものの、それでも 37 農園 300 人強の会員がおり、統計上の専業農家数と、販売農家数を上回っています。このような状況ですから、地方でありながら、農業地域ではなく、消費地なのです。



市内にある自然農園

■農業・農地の課題と解決方法

全国的に、農業が衰退し、農地も農家も減少しています。わかりやすく言えば、農業では飯が食えないことが原因だと思います。特に当市のような狭い圃場、小規模経営であれば、なおさらで、農家が効率化して多くの収量を得ることは、ほぼ不可能な状

況にあります。ということは、薄利多売ではなく、利益率の高い少量の生産物で勝負をすることになり、少ない投下資本と労力で生産原価を下げるのが必須となります。しかし、消費者も比較対象が多くあるので価値がある物にしかお金を払わない。そのため、いかに価値をつけ、「うまい」や「カラダに良い」ということを価値として認識されるようにするかが解決方法だと考えています。

■吉田俊道さんとの出会い

新居浜市には、環境問題に取り組む市民団体もいくつかあります。私の仕事は、市職員なのですが、地域活動やボランティア活動を入庁当時からしていることもあり、環境市民会議のメンバーから「吉田俊道さん（以下、吉田さん）という人がいて、生ごみリサイクルで元気野菜をつくる活動をしている。新居浜に呼びたいのだがどうしたらよいか。」と相談を受け、愛媛県の外郭団体の助成金を受けることを提案しました。これで、吉田さんを2回招へいました。これをきっかけに翌年、公民館や小学校での講演があったものの、その後は、2～3年に一度、環境カウンセラー等交流会や環境市民会議が招へいしていましたが、あまり拡がりは見られませんでした。



NPO 法人 大地といのちを守る会（長崎県）
代表 吉田俊道さん

■アドバイザー派遣事業活用のきっかけ

平成27年度に、私は農林水産課に異動となり、前述のように農業の課題解決をするために吉田さんが実践しているような方法をやるべきではないかと考えるようになりました。もちろん、今現在の農家がやっている慣行農業を否定するものではありません。

農林水産課の事務分掌に「自然農園に関すること」があり、「自然農園を育てる会」が、年に一度「ふれあい研修会」をしていたことから、平成28年度に、アドバイザー派遣事業を活用して、吉田さんを招へいし、愛媛県農産園芸課の後援も受け、県の総合科学博物館ホールにて「ふれあい研修会」を実施しました。これには、会員以外にも多くの方が来場し、その後の展開のきっかけとなったのではないかと感じています。これは、農家の農業が変わったということではなく、農家ではない人が、農地や野菜、食育について関心を持ち始めたということです。

「ふれあい研修会」をきっかけに、他の団体等でも「吉田さんの話を聞きたい、子ども達に聞かせたい。」という声が出てきました。農家ではない方からの要望が多いということは驚きでした。



ふれあい研究会

■多様な主体の取組み紹介

①環境市民会議・環境カウンセラー等交流会

生ゴミ堆肥化や、有機農法の観点から、講演会等を実施しました。参加者は一般の方も可としていたので、年齢層の高い会員と、子育て世代のお母さんが中心でした。

②自然農園を育てる会

この会が管理・運営する農園では、農薬・化学肥料を使わず、1区画約50㎡で耕作ができます。平成28年度以降、ふれあい研修会で講演会を実施しています。さらに、現地で『生ゴミを漬物にして土に入れる方法』、『生ゴミを土に入れる方法』、『草を使う方法』等の実践指導も吉田さんにいただき、会員の中でも自ら実践する人も出てきました。また、

環境カウンセラー等交流会が製作した大型のコンポストを自然農園に設置して使用するという連携も行われています。年に一度の収穫祭では、会員が農産物を持ち寄り品評会が行われています。会員は、多岐に渡る品目・品種を栽培しており、例えば芋だけでも20種類を超えています。



収穫祭での品評会

③泉川学校運営協議会

泉川小学校で、児童対象の講演会を開催し、吉田さんより『あいうべ体操』や『のどが乾いたら水かお茶』、『旬の野菜を食べる』、『海(のもの=煮干し)を食べよう』等、楽しいお話をしていただきました。



児童対象の講演会

④大生院小学校 畑の先生（農業体験）

大生院小学校では、地域で農業をされている方等が畑の先生として、畑や稲作の指導を以前から続けています。15年ほど前に、吉田さんから児童に直接指導や講演いただいたこともあり、また講演等をお願いしました。「土が菌ちゃんといっぱいになると、元気な野菜が育つ」「元気な野菜には虫が来にくい」「みんなだつて身体の調子が悪い時に風邪をひいたりするんじゃないか」「野菜もいっしょ、元気な野菜を食べると元気な身体になる」といった話をしていただきました。

⑤中萩中学校PTA

中萩中学校において、生徒を対象に食育の講演会を開催しました。おなかの中も畑と同じということや、細胞レベルでは、数か月から2年くらいですべて入れ替わっていること、旬のものを食べること。4週間食を変えてみることで、体温が劇的に変わること等をお話しいただきました。



中学生を対象とした食育の講演会

⑥高校生ボランティアサークルMAY

高校生が地域のために何ができるか自ら考え、行動しているサークルです。地域のためにイベント開催やボランティア活動をしています。高校生が食育を自ら学ぶために、講演会を主催することは珍しい事例かと思えます。イベントの当日は台風であったため、急遽前日にメンバー等の高校生がお話を伺いました。「腐敗と発酵の違いや旬の野菜を食べること、抗酸化物質のこと、食が変わると体温が上がること」等を学びました。



高校生対象の講演会

⑦男の子育てサークルDADDY

私が主宰するサークルです。一般の方向けの講演会と、すみれ保育園で、園児を対象に生ゴミ土づくりの実習を行いました。園児達がすごく喜んでやっていました。後日、タマネギを植え、すごく良くで

きたと聞いています。

■おわりに

アドバイザー派遣事業のおかげで、このように多様な主体が吉田さんを招へいし、当市では『菌ちゃん』が、少しずつではありますが浸透しています。未来を担う子ども達にとって、「食」や「農」に関心を持ってもらうことは、農家の人に話をするよりも、すそ野を広げる意味では結果的に早いのではないかという気がします。吉田さんの話は、自然な感じでスッと身体に入ってきます。農業の担い手がいなと言われてますが、農家ではない人を小規模でも担い手として呼び込んで菌ちゃん農法をすることで、耕作放棄地の解消と、担い手不足の解消にならないかと考えています。



吉田さんの講演を聞いた方で、これまでのやり方を改善する方、小さくても一歩実践してみる方、子ども達の体験、これらは、本当に小さな動きだと思いますが、地域や農業の可能性を秘めており、動きが加速してほしいものです。



私事ですが、サラリーマン家庭で育ち、農業をしたことがありませんが、健康ややりがい、地域のことを考えて、自然農法で農業を始めようと思い、農業委員会に4か所合わせて3反の農地（ほとんど



が耕作放棄地)を借りるための許可申請書を提出しました。もちろん職場の兼業許可をとっています。この原稿がホームページに載る頃には、農業を開始し、草刈りしているはずです。うまくできれば、地域の子も達に収穫体験させたいなあ、と思っています。

吉田さんには、何度も新居浜市にお越しいただきありがとうございます。

吉田さんの菌ちゃん農法は、プランターでも実施することができます。調べようかなと思った方、ネット検索や上の画像のように紙芝居、本、DVD、映画まであります。あなたもカラダに良い美味しい野菜を自分で作って食べてみませんか。

農林水産省のYouTubeのように、今後「菌ちゃん」がバズることを期待しています。

